

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2294200791		
法人名	株式会社ケアクオリティ		
事業所名	グループホームケアクオリティ和音	ユニット名	1Fユニット
所在地	静岡県静岡市葵区緑町8-18		
自己評価作成日	平成24年11月22日	評価結果市町村受理日	平成25年2月5日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaijokensaku.jp/22/index.php?action_kouhuku_detail_2010_022_kani=true&JigvosvoCd=2294200791-00&PrefCd=22&VersionCd=
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	セリオコーポレーション株式会社 福祉第三者評価・調査事業部
所在地	静岡県静岡市清水区迎山町4-1
訪問調査日	平成24年12月18日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

人の出会いは偶然ではなく、必然だと思えます。
 ホームで生活している方々も、家族も、スタッフも、そして、いままで出会ってきた方々も、意味があって出会ったのだと思えます。
 私たちは共に生活する中で、共に楽しみ・共に笑い・共に悲しみ、家族として共感し、生活を支援しています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

「笑顔と幸せが集まる和やかな家」の理念をそのまま象徴するかのように利用者・管理者・職員の表情は共に明るく自然体である。管理者の冗談に、お腹をよじるほど笑い転げる利用者、自分の趣味に没頭して時間を過ごす利用者、それぞれの利用者のお喋りやしぐさからは、日々の穏やかな生活ぶりがうかがえる。職員はケアに対して自立しており、利用者を尊重した対応で笑顔を絶やさず優しく接している。管理者は、グループホームの仕事への思いも深く、真摯に取り組んでおり、職員の信頼も厚い。地域とのつながりを深める努力も始めており、理念に基づいた運営がこれからも継続されることが期待できるホームである。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	事務所内に職員の目に着く場所に理念を貼り就業時には唱和し共有している。	和音の理念として「笑顔と幸せが集まる和やかな家」を掲げ、事務所に掲示している。この理念が職員全員に、より浸透するために、今年度から就業時に唱和しており、常に立ち戻って考え話し合うなど実践に繋げている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一人として日常的に交流している	町内会に入っており、町内の行事に等に参加する他、本年より「和音いきいき祭り」を開催し、地域の方との交流を目的とした催しを行った。	町内会に所属し、回覧板も廻したり、行事にも参加している。初めての試みとして、「和音いきいき祭り」を実施。回覧での呼びかけや声掛けもし、積極的に地域とのつながりを深めるよう取り組んでいる。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	運営推進会議や行事を通じ、地域の方々に認知症の理解を深めるよう努めて、圏域会議に参加し、圏域の自治会等の皆様と情報交換を行っている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこの意見をサービス向上に活かしている	年6回(奇数月の第4火曜日)開催し、会議を通して意見を聞いたり、ご相談をしている。	運営推進会議は、町内会長や民生委員・地域包括支援センター職員・介護相談員・介護保険課等をメンバーとし、行事やサービスの実際などの報告を話し合っている。年間予定日が決められており確実に実施されている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	葵区の生活支援課や社会福祉協議会等の社会資源を利用したり、運営推進会議を通して地域包括や民生委員からの相談にものっている他、運営推進会議の会議録を介護保険課へ提出している。	市など関係部署への提出物は、その都度届けに出掛け、担当者との連絡を密にし連携を取っている。運営推進会議の会議録も提出し取り組みを伝え協力関係を築いている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	拘束の宣言を掲げ、玄関及びユニットの施錠はせず、社外や社内研修により、職員達が学び取り組んでいる。	職員は、社外や社内研修により、身体拘束について学んでもいるが、日々の生活の中でも話し合いを重ねている。夜間、玄関の施錠はするが、それ以外は安全に配慮しながら自由な暮らしが出来るようなケアをしている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	社外研修を受けた物を社内研修として学び、職員間にてお互いを指摘したり、協力して業務の分担に努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	ご利用者によって身寄りのない方や、家族が遠距離の方などに、権利擁護事業を紹介し、ご利用して頂いている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又はや改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	管理者がその都度、説明を行い疑問点についてはその時に話しをし、理解を得て家族より署名捺印をいただいている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	受診の都度、家族に連絡し、状況を報告する他、プラン作成時には家族の意向を聴いて反映させている。また、定期的(1ヶ月に一度)に介護相談員の派遣を取り入れ、相談員からの助言を頂き、運営に反映している。	介護相談員を毎月受け入れ、利用者の意見を聞いたり相談にのってもらっている。それらを参考にして運営に反映させている。苦情受付箱も置いてある。家族の訪問時には、意見や要望を聴くようにしている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	本社委員会へ各事業所の委員が出席し、意見交換をする場を設け、ユニット長が主体の主任会議を本社で行い、現場の声を聴いている。	職員は、それぞれの委員会に属しており、本社にて意見や提案を発表したり、その結果を持ち帰り報告している。今回の自己評価作成は、管理者が記入しており、職員は直接的には参加していない。	管理者は、職員の意見をよく聞き、話し合い理解をしている。しかし、職員も外部評価について知り自己評価に参加することは質の向上につながるもので、参画できるような工夫を望みた
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	評価考課を行っている他、資格手当等ステップアップした際には給与に反映している。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	新入職時や初級研修など段階に応じた研修を定期的に行っているほか、自身の受けた研修は行けるよう配慮をしている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	研修や講習、圏域会議、アフターに行われる催し等に参加し情報交換を行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	場所や声掛けに気を配り、何気ない会話から、真意を聴ける様心掛けている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	訪問や電話など、本人の前で話しにくいことは、別に時間をつくり、傾聴している。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	その時々合ったサービスを提供し、権利擁護や訪問サービス、他事業所などにも提供をすることもある。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	共同生活を行う場として出来ること出来ない事を見極めて、出来ることは見守り、出来ないことはお手伝いし、感謝の気持ちと言葉を持って接している。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	本人の気持ちと家族の気持ちを汲み取り家族が支援できない所は、ホームサイドで検討相談している。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	親類はもちろん、同じ町内の方や知人が来てお部屋で話しをしている。	誕生日や母の日などに家族と食事に出掛けたり、墓参り、葬式などにも出掛けている。自立度の高い利用者は、近くへ一人でも買い物に出掛けている。町内会や民生委員のなど知人の訪問もある。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	レクリエーションなどを通して孤立しない様支援している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	他施設へ訪問に行った際は声を掛けさせていただいたり、亡くなった際には葬儀に行っている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	担当者が日常の様子や会話の中から希望や意向を聴いたり、把握する様になっている。他、3ヶ月に一度、変更時にモニタリングを行いカンファレンスを行っている。	職員は日常のコミュニケーションを大切にしている。変化する利用者の支援に向けて検討し、申し送りノート等で全職員が情報を共有している。時には居室を訪問して把握するなど個別的な対応を可能にしている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	情報提供書を参考にしたり、本人や家族からの聞き取りして把握している。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	アセスメントを作成する際には職員からの情報をもらう他、日々のバイタルチェック等の健康管理を行っている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	変化がなければ3ヶ月に1度モニタリングを行い、月1回のカンファレンス時に意見交換を行いプラン作成をしている。医師や看護師からの情報も組み入れている。	本人や家族・医師の意見や、毎月1回のカンファレンスで職員の気づき等、担当職員を中心に意見が交わされ、安全で自立した生活が送れるような介護計画が作成されている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個別のケース記録や記録用紙があり日々の様子を記録をして、申送りやミーティングで情報を共有し、モニタリングを行い見直しを図っている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	ご家族の宿泊に対応したり、状態の変化があれば、スタッフと話し合い外部サービスを利用するなど、それに合ったケアをおこなっている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域の催しもの等に見物しに出掛けたり参加したりしている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	月に1回往診があり、状態により都度あった病院へ行く他、訪問診療等も利用できるように支援している。	月1回協力医の往診と週1回の訪問看護を受けている。受診結果は家族に伝え情報を共有している。総合病院へは家族が付き添い適切な医療が受けられるよう家族と協力して支援している。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	訪問看護ステーションと連携し、週一回の健康チェックの他、24時間オンコール態勢を取っている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院した際は病院へ出向き、ドクターや看護師または地域医療相談室で現状と今後の受入れ等話し関係を作っている。入退院時の情報提供書等のやり取りも行っている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所のできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域との関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	看取りに関わる指針があり、入居時にもせつめいをしているほか、本人や家族の意向を聞き、医療連携を取って支援している。	入居時、重度化した場合のあり方について本人・家族に説明し、方針を共有している。日頃から職員研修を行い、フローチャートを整備してすぐに対応できるようにして、チームの連携を図り、職員間でも方針を共有している。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	フローチャートを作成しており対応している。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	避難訓練の実施のほか、各災害のフローチャートを作成し掲示して周知している他、防災の際に近隣の被災者の受入れを行う話もしている。	年2回全職員が参加して消火器の使用方法や非常階段での避難方法など、現況に即した防災訓練を定期的実施している。町内会の避難訓練にも参加し、備蓄も用意されている。	災害時の避難に近隣の住民の支援が受けられる体制と協力関係が得られるような働きかけを期待したい。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	親しみの中でも砕け過ぎない呼び方を心掛け、職員同士の会話にはイニシャルを用いるように配慮している。	利用者個々に合わせた名前呼び方や声のかけ方は、尊厳を大事にした言葉掛けに努めている。研修を通じて人格の尊重やプライバシーの保護に徹底して配慮し、職員に浸透させている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	雑談の中で本人の希望を聞いたり反映している。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	自宅に居るような落ち着いた雰囲気になる様に気をつけて、出掛けたい時に出掛けている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	本人に好きな服を選んで頂いたり、月に1回ビューティヘルパーさんが来てカットしてもらっている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	嫌いな物を把握したり、一緒に準備や片付けを行っている他、誕生日にはその方の食べたいものを提供したり、行事には特別食を用意しています。	調理に参加できる利用者が盛り付け、配膳、片付け等一緒に行っている。栄養士が作成した献立を参考に、畑の野菜を加えたり、日曜日にはパンを、誕生日には利用者が希望するメニューを取り入れる等、食事を楽しむための支援をしている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	毎日の食事量や水分量を記録しているほか、お茶以外での対応や栄養補助食品を利用する事もある。栄養士が作成したメニューを参考にアレンジしている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後におこない、出来る方にも声掛けをして、出来ない方は支援しながらチェックしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	食後や時間を決めたトイレ誘導に、排泄のリズムを作り、習慣にしてトイレで排泄を促している他、表情や行動をみて促している。	職員は排泄表の記録を参考に適切にトイレに誘導している。身体機能や生活リズムを把握して、無理に誘導することなく個々の力を活かした支援をしている。羞恥心の配慮も充分である。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	食物繊維が多い野菜や、乳製品を摂っていただいたり、体を動かしていただいたりしているほか、薬での調整も行っている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	二日に一度のペースで入浴できるように支援しています。本人から訴えがあればその時間に入って頂いている。	入浴はほぼ一日おきに行っている。利用者の日々の希望や必要に合わせて清拭・足浴等、体調を見極めながら希望に添えるよう、また無理なく入浴を楽しめるよう支援している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	日中傾眠されている時には自室で休んでもらっている。巡回など邪魔にならないように努めている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬が変わった時などは申送りをして、誤薬が無い様に服薬までに3回確認し注意をしているほか、症状の変化については医師に相談している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	毎日ではないが、散歩や買物に行き気分転換を図っているほか、その方にあったお手伝いをして頂いている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	自分で出られる方は連絡カードを持って出掛けます。無理に連れだす事は無く、外出は自由にさせて本人の気が済むまで外出するほか、家族との外食にも出掛けています。	玄関は鍵をかけずいつでも自由に入出りができ、一人ひとりの希望による買い物や外出に柔軟に対応している。裏庭での日光浴やお茶のひと時は気分転換になり、季節ごとには揃って外出し、外食も楽しんでいる。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	本人の希望があれば買物へ行き、お金の支払いもお願いしている。出納帳をつけて頂いて管理している方もいます。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	本人の希望があれば自由に電話して頂いている。また定期的に家族へ電話される方もいます。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	行事の写真や季節感がある壁の飾りを行っている。	共通の空間は広く明るい。畳コーナーがあり窓際にはソファを置き、ゆったりとした時間を過ごせる工夫がある。裏庭には金魚を飼い絶好の外気浴の場になり季節感・開放感も味わえ、インコのピーちゃんに癒され和める暮らしをしている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	気の合った方同士が過ごせるように机や椅子の配置をしている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	本人や家族の好みで用意して頂いている。	居室は広く小物類はクローゼットに収納され清潔で整理整頓されている。漢字検定に挑戦する利用者は机といすが備えられ、使い慣れたタンス・テレビや思い出深い写真を飾りそれぞれが安心して暮らせる工夫がある。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	バリアフリーになっており各所に手すりを設置して安全に歩行や立位をさせて頂いている。		

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2294200791		
法人名	株式会社ケアクオリティ		
事業所名	グループホームケアクオリティ和音	ユニット名	2Fユニット
所在地	静岡県静岡市葵区緑町8-18		
自己評価作成日	平成24年11月22日	評価結果市町村受理日	平成25年2月5日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaigokensaku.jp/22/index.php?action_kouhou_detail_2010_022_kani=true&JigyosyoCd=2294200791-00&PrefCd=22&VersionCd=
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	セリオコーポレーション有限会社 福祉第三者評価・調査事業部
所在地	静岡県静岡市清水区迎山町4-1
訪問調査日	平成24年12月18日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

<p>人の出会いは偶然ではなく、必然だと思えます。 ホームで生活している方々も、家族も、スタッフも、そして、いままで出会ってきた方々も、意味があって出会ったのだと思えます。 私たちは共に生活する中で、共に楽しみ・共に笑い・共に悲しみ、家族として共感し、生活を支援しています。</p>

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

<p>※複数ユニットの外部評価結果は1ユニット目の評価表に記入されています。</p>
--

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	事務所内に職員の目に着く場所に理念を貼り就業時には唱和し共有している。	※複数ユニットの外部評価結果は1ユニット目の評価表に記入されています。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	町内会に入っており、町内の行事に等に参加する他、本年より「和音いきいき祭り」を開催し、地域の方との交流を目的とした催しを行った。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	運営推進会議や行事を通じ、地域の方々に認知症の理解を深めるよう努めて、圏域会議に参加し、圏域の自治会等の皆様と情報交換を行っている。	/	
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実践、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	年6回(奇数月の第4火曜日)開催し、会議を通して意見を聞いたり、ご相談をしている。		
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者とは日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	葵区の生活支援課や社会福祉協議会等の社会資源を利用したり、運営推進会議を通して地域包括や民生委員からの相談にものっている他、運営推進会議の会議録を介護保険課へ提出している。		
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	拘束0宣言を掲げ、玄関及びユニットの施錠はせず、社外や社内研修により、職員達が学び取り組んでいる。		
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	社外研修を受けた物を社内研修として学び、職員間にてお互いを指摘したり、協力して業務の分担に努めている。	/	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	ご利用者によって身寄りのない方や、家族が遠距離の方などに、権利擁護事業を紹介し、ご利用して頂いている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又はや改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	管理者がその都度、説明を行い疑問点についてはその時に話しをし、理解を得て家族より署名捺印をいただいている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	受診の都度、家族に連絡し、状況を報告する他、プラン作成時には家族の意向を聴いて反映させている。また、定期的(1ヶ月に一度)に介護相談員の派遣を取り入れ、相談員からの助言を頂き、運営に反映している。		
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	本社委員会へ各事業所の委員が出席し、意見交換をする場を設け、ユニット長が主体の主任会議を本社で行い、現場の声を聴いている。		
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	評価考課を行っている他、資格手当等ステップアップした際には給与に反映している。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	新入職時や初級研修など段階に応じた研修を定期的に行っているほか、自身の受けた研修は行けるよう配慮をしている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	研修や講習、圏域会議、アフターに行われる催し等に参加し情報交換を行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	場所や声掛けに気を配り、何気ない会話から、真意を聴ける様心掛けている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	訪問や電話など、本人の前で話にくいことは、別に時間をつくり、傾聴している。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	その時々にあったサービスを提供し、権利擁護や訪問サービス、他事業所などにも提供をすることもある。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	共同生活を行う場として出来ること出来ない事を見極めて、出来ることは見守り、出来ないことはお手伝いし、感謝の気持ちと言葉を持って接している。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	本人の気持ちと家族の気持ちを汲み取り家族が支援できない所は、ホームサイドで検討相談している。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	親類はもちろん、同じ町内の方や知人が来てお部屋で話しをしている。		
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	レクリエーションなどを通して孤立しない様支援している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	他施設へ訪問に行った際は声を掛けさせていただいたり、亡くなった際には葬儀に行っている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	担当者が日常の様子や会話の中から希望や意向を聴いたり、把握する様になっている。他、3ヶ月に一度、変更時にモニタリングを行いカンファレンスを行っている。		
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	情報提供書を参考にしたり、本人や家族からの聞き取りして把握している。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	アセスメントを作成する際には職員からの情報をもらう他、日々のバイタルチェック等の健康管理を行っている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	変化がなければ3ヶ月に1度モニタリングを行い、月1回のカンファレンス時に意見交換を行いプラン作成をしている。医師や看護師からの情報も組み入れている。		
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個別のケース記録や記録用紙があり日々の様子を記録をして、申送りやミーティングで情報を共有し、モニタリングを行い見直しを図っている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	ご家族の宿泊に対応したり、状態の変化があれば、スタッフと話し合い外部サービスを利用するなど、それに合ったケアをおこなっている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域の催しもの等に見物しに出掛けたり参加したりしている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	月に1回往診があり、状態により都度あった病院へ行く他、訪問診療等も利用できるように支援している。		
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	訪問看護ステーションと連携し、週一回の健康チェックの他、24時間オンコール態勢を取っている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院した際は病院へ出向き、ドクターや看護師または地域医療相談室で現状と今後の受入れ等話し関係を作っている。入退院時の情報提供書等のやり取りも行っている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所のできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	看取りに関わる指針があり、入居時にもせつめいをしているほか、本人や家族の意向を聞き、医療連携を取って支援している。		
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	フローチャートを作成しており対応している。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	避難訓練の実施のほか、各災害のフローチャートを作成し掲示して周知している他、災時の際に近隣の被災者の受入れを行う話もしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	親しみの中でも砕け過ぎない呼び方を心掛け、職員同士の会話にはイニシャルを用いるように配慮している。		
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	雑談の中で本人の希望を聞いたり反映している。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	自宅に居るような落ち着いた雰囲気になる様に気をつけて、出掛けたい時に出掛けている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	本人に好きな服を選んで頂いたり、月に1回ビューティヘルパーさんが来てカットしてもらっている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	嫌いな物を把握したり、一緒に準備や片づけを行っている他、誕生日にはその方の食べたいものを提供したり、行事には特別食を用意しています。		
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	毎日の食事量や水分量を記録しているほか、お茶以外での対応や栄養補助食品を利用する事もある。栄養士が作成したメニューを参考にアレンジしている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後におこない、出来る方にも声掛けをして、出来ない方は支援しながらチェックしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	食後や時間を決めたトイレ誘導に、排泄のリズムを作り、習慣にしてトイレで排泄を促している他、表情や行動をみて促している。		
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	食物繊維が多い野菜や、乳製品を摂っていたり、体を動かしていたりしているほか、薬での調整も行っている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	二日に一度のペースで入浴できるように支援しています。本人から訴えがあればその時間に入って頂いている。		
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	日中傾眠されている時には自室で休んでもらっている。巡回など邪魔にならないように努めている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬が変わった時などは申送りをして、誤薬が無い様に服薬までに3回確認し注意をしているほか、症状の変化については医師に相談している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	毎日ではないが、散歩や買物に行き気分転換を図っているほか、その方にあつたお手伝いをして頂いている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	自分で出られる方は連絡カードを持って出掛けます。無理に連れだす事は無く、外出は自由にさせて本人の気が済むまで外出するほか、家族との外食にも出掛けています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	本人の希望があれば買物へ行き、お金の支払いもお願いしている。出納帳をつけて頂いて管理している方もいます。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	本人の希望があれば自由に電話して頂いている。また定期的に家族へ電話される方もいます。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	行事の写真や季節感がある壁の飾りを行っている。		
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	気の合った方同士が過ごせるように机や椅子の配置をしている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	本人や家族の好みで用意して頂いている。		
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	バリアフリーになっており各所に手すりを設置して安全に歩行や立位をして頂いている。		